

出土木簡積文
(抄)

凡 例

- 一、この出土木簡積文(抄)には、本報告書が報告対象とする第一五七次調査と同補足調査において南北溝SD三七一五から出土した一二七二点の木簡のうち、主要なものを掲げる。
- 一、第一五七次調査と同補足調査で出土した木簡の積文は、『平城宮発掘調査出土木簡概報(十八)』(一九八五年)、『同(二十)』(一九八八年)において略報告したものに概ね従っているが、一部訂正を加えた場合があり、今後は本報告書によられたい。なお、追って正報告を刊行の予定である。
- 一、木簡の排列は、木簡の内容分類により、文書、物品付札・荷札、その他、不明の順に並べることを原則とし、便宜上から46までの通し番号を付した。
- 一、積文の漢字は現行常用字体を用いたが、「廣」「嶋」についてはこの字体を用いた。
- 一、編者において加えた文字には次の二種の括弧を施した。括弧は原則として右傍に加えたが、組版の都合上左傍に施した場合もある。
 - 〔 〕 校訂に関する註のうち、本文に置き換わるべき文字を含むもの。
 - () 右以外の校訂註、及び説明註。
- 一、本文に加えた符号は次の通りである。
 - ・ 木簡の表裏に文字がある場合、その区別を示す。
 - 欠損文字のうち字数の確認できるもの。
 - 欠損文字のうち字数が数えられないもの。
 - 記載内容からみて、上または下に一字以上の文字を推定できるもの。但し削屑については煩雑になるので、この記号を省略した。
 - 「 」 異筆、追筆。
 - カ 編者が加えた註で、疑問が残るもの。
 - (×) 文字の上に重書して原字を訂正している場合、訂正箇所左傍に・を付し、原字を右傍に示した。
- 一、積文下の上段のアラビア数字は、木簡の長さ・幅・厚さ(単位はミリメートル。いずれも最大値)を示す。欠損しているもの及び二次的な整形を受けている場合は、現存部分の法量を括弧付きで示した。なお、長さ・幅は木簡の文字の方向による。なお、削屑については、法量の表記を省略した。

(一)

- 一、積文下の中段の三桁のアラビア数字は型式番号を示す。当研究所で用いている型式番号は次の通りである。
 - 6011型式 長方形の材(方頭・圭頭などもこれに含める)のもの。
 - 6015型式 長方形の材の側面に孔を穿ったもの。
 - 6019型式 一端が方頭で、他端は折損・腐蝕などによって、原形の失われたもの。原形は6011・6015・6032・6041・6051型式のいずれかと推定される。
 - 6031型式 長方形の材の両端の左右に切り込みをいれたもの。
 - 6032型式 長方形の材の一端に左右に切り込みをいれたもの。
 - 6033型式 長方形の材の一端の左右に切り込みをいれ、他端を尖らせたもの。
 - 6035型式 長方形の材の一端の左右に切り込みがあるが、他端は折損・腐蝕などによって、原形の失われたもの。原形は6031・6032・6033・6043型式のいずれかと推定される。
 - 6041型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状に作ったもの。
 - 6043型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状にし、左右に切り込みをもつもの。
 - 6045型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状にしているが、他端は折損・腐蝕などによって、原形の失われたもの。原形は6041・6043型式のいずれかと推定される。
 - 6051型式 長方形の材の一端を尖らせたもの。
 - 6052型式 材の一端を尖らせているが、他端は折損・腐蝕などによって、原形の失われたもの。原形は6033・6051型式のいずれかと推定される。
 - 6053型式 用途不明な木製品に墨書のあるもの。
 - 6055型式 用途未詳の木製品に墨書のあるもの。
 - 6081型式 折損・割截・腐蝕その他によって原形の判明しないもの。
 - 6091型式 削屑。
- 一、積文下の下段に掲げたアルファベット二文字と二桁のアラビア数字からなる記載は、木簡が出土した小地区を示す。詳細は本文図74を参照されたい。Zは地区不明を示す。複数の地区から出土した断片が接続した場合は、地区名を列記した。
- 一、最下段の数字は木簡写真を掲載している図版のプレート番号である。

第一五七次調査・同補足調査SD三七一五出土木簡釈文

- 1. 厨 請飯壹斗式升
 菜扱二人 五月二日秦千□
 192・(17)・2 081 DD34 76
- 2. 細工所請合□□尺伍寸
 内舍人佐伯「老」288・(25)・4 081 D134+D133 77
- 3. □□受飯二斗九升 □□十一人料
 [右カ]
 □年七月□日□□大炊司物部荒人
 394・24・10 011 D134 76
 83
- 4. □□部豊人 [×右カ]
 □□部万呂 合三人受廣
 □□
 [四カ]
 □月十三日史生額田□長三升
 233・(22)・3 081 DE34 76
- 5. 十二日宿位子日奉乙麻呂
 196・40・7 011 DL34 77
- 6. 右依少録勤臣
 □□錦部連「□□」
 (148)・(14)・4 081 DJ33 77
- 7. 宝龜九年三月十六日正六位上□
 (134)・(27)・2 081 DG34 77
- 8. □□人 [謹上カ]
 □□
 □□
 (107)・(12)・6 081 DJ34 77
- 9. 天平宝字四年□□□史考状□□(軸木口)
 □□ (軸木口)
 皇3151・皇22 061 DL34+DJ33 79
 83
- 10. □□(軸木口)
 皇(187)・皇19 061 DZ 79
 83
- 11. 勝部 [通カ]
 高橋連
 錦
 河内□□
 茨□□得
 秦忌守田□
 從八上□□□守 [秦忌カ]
 守□□水
 從七下 日佐□
 從七上美努連
 從六位上三嶋
 河内國
 今木連
 眞女眞
 出書□□
 眞原眞
 渡眞
 眞強ノノ
 眞強ノノ
 眞眞眞
 眞眞眞眞
- 12. 去出
 藤孫□
 (74)・35・8 015 DH34 78

- | | | | | | |
|----|-------------------------------------|--------------|-----|------|----|
| 13 | 中等 | (35)・(10)・3 | 019 | DC34 | 78 |
| 14 | 今上
大初 | | 091 | DE34 | 78 |
| 15 | 番上選目録 | | 091 | DH34 | 78 |
| 16 | (勲位カ) | | 091 | DH34 | 78 |
| 17 | 從六位下
尺度忌寸人 | (126)・(12)・3 | 081 | DE34 | 78 |
| 18 | 部令史系「真」 | | 091 | DZ | 80 |
| 19 | 古万呂
長水
<small>十一月十六日返</small> | | 091 | DC34 | 80 |
| 20 | 令史 | (85)・(13)・3 | 081 | DI34 | 80 |
| 21 | 内豎 | (48)・(11)・5 | 011 | DC34 | 80 |
| 22 | 外兵庫
勅旨省
廣人 | | 019 | DF34 | 80 |
| 23 | 守王
内王 | (40)・20・3 | 081 | DH33 | 80 |
| 24 | 戸東人
部難
<small>(波カ)</small> | (94)・18・2 | 081 | DI34 | 80 |
| 25 | 物部 | | 091 | DI33 | 80 |
| 26 | 部嶋 | | 091 | DZ | 80 |
| 27 | 麻呂 | | 091 | DC34 | 80 |
| 28 | 郡カ
郷カ
年十月
廿カ
日 | (150)・25・3 | 019 | DF34 | 81 |
| 29 | 水母二斗 | (95)・16・4 | 039 | DH33 | 81 |
| 30 | 三 | (76)・(16)・4 | 081 | DI34 | 81 |

31	□御贄佐米楚割六斤	(61)・(10)・3 081 DH33	81	83	40	□□四□三	091 DE34	82
32	□合陸	(45)・(18)・2 081 DJ34	81		41	□□〔有力〕	091 DD34	82
33	天 □	97・18・3 032 DC34	81		42	□人	091 DH33	82
34	□嶋 □□□□□ 并三斤	144・20・6 032 DB34	81		43	□上依	091 DH33	82
35	□内□□□ □□九	(193)・15・2 081 DZ	82		44	□□□	091 DC34	82
36	□得日向□□	(134)・(27)・2 081 DG34	82		45	相	(11)・(24)・3 081 DZ	82
37	机机	(33)・19・2 019 DJ34	82		46	□雜論	091 DH33	82
38	□□□来□	091 DC34	82					
39	□□間	091 DC34	82					